

新建みやぎ

やっぺあ

新建築家技術者集団 宮城支部-Web

URL: [宮城支部](#) | [新建築家技術者集団-新建web-](#) ([nu-ae.com](#))

2023年(令和5年)5月発行



写真① 青葉城からの眺望



写真② あすと長町復興公営住宅とタワーマンションの一体的開発



写真③ 仙台朝市と巨大ビル

写真についてはP3と編集後記参照

★**新建築家技術者集団** 宮城支部からのお知らせ

- ✓ 5月30日(金) 18:30 新建宮城支部会議
- ✓ 9月には石巻市の震災復興の研修視察・交流会を予定しています。

★No.276号 目次

	頁
□活動報告 杜の家づくりネットワーク「木考塾」報告	佐々木 文彦 2
□活動報告 地域のまちづくり活動に参画して思うこと	西條 芳郎 3
【まち・建築人/口伝1②】 大工 荒木吉秋さん 職人仕事・いま・後継ぎ	4
「災害ケースマネジメント」制度化、まちづくりの視点から(2)	岩淵 善弘 5
震災復興への旅 石巻市の震災復興調査に向けて	阿部 重憲 6

## □活動報告

杜の家づくりネットワーク「木考塾」 報告

### テーマ 『仕事を遊ぶ』～2025 年問題『若手や職人の人材不足』

ササキ設計  
佐々木 文彦

去る4月13日に表記のテーマで講師に共栄ハウジング株式会社社長の宗方正吉さんを迎え、活発な意見交換が行われました。講師の宗方さんは、1949年福島県郡山市生まれ。これまで地元ゼネコンや大手住宅ビルダーで設計・施工管理の経験を積み、仙台の片倉工務店で更に数多くの住宅建築に携わりました。退職後の2008年に会社（前記）を設立し、豊富な知識・経験を活かし、後進の育成はもとより、著名な設計事務所や新進気鋭の若手建築家たちの要請に応えつつ、自社設計注文住宅（rustic+factory）にも取組まれています。



参加者との対話の中からいくつか紹介します。まず「仕事を遊ぶ」ことの意味については、子供のころ楽しく遊んでいるように見えた建設現場で、監督やっていた叔父さんが好きであこがれた。それが建築の道に進むきっかけになった。色々な出会いに恵まれスキルアップしていく中で、仙台の片倉工務店の番頭になり、59歳で独立し共栄ハウジングを立ち上げ、仲間に助けてもらい今に至る。根っこに仕事を遊びに変えている感覚がある。

また、「若手の人材不足」については、労働環境や建設業界のイメージの問題もあり、若手人材の不足が続いている状況だが、共栄ハウジングでは後継者の育成と事業の継続を取り組みながら、幹部社員の中から社長職の代替わりを実現させた。労働環境改善や働き方改革等で魅力ある会社にしていけば若い人も入ってくる。若い人に対して、自分の給料の4倍分位稼ぎ出す位の心構えが必要ではないかと考えている。

「職人の人材不足」については、熟練職人達の高齢化が進む中、若手を育成するだけの余力がない状況ではあるが、職人の共有や、新しい職人達を皆で囲って育てていけるような仕組みづくりが必要で、元請け会社の単価見直し、協力会社の意識改革等相互の努力が必要だ。職人としても自分自身の努力がまず必要であると。

最後に「宗方さんにとって建築とは？」。好きでなければやれないのが建築。自分としては特に何もしてないけど周りの人たちに助けられて今の自分が在る。会長となった今、週に1～2回の出社だが、今でも自分（宗方さん）指名の仕事が入ってくる。



杜の家づくり NETWORK 木考塾

2023/4/13(木) 19:00～20:30  
仙台市民会館 第2会議室  
参加費：無料

「仕事を遊ぶ」  
～2025年問題「若手や職人の人材不足」ディスカッション～



# □活動報告 地域のまちづくり活動に参画して思うこと

一級建築士事務所 空間環境研究所

西條 芳郎

## ○地域での孤立死を考える。(外部資料なども参考にしています)

現在日本に於いては、核家族化が進行し孤独・孤立して生活を過ごす人たちが増えてきています。孤独・孤立の果てに人知れず亡くなる人もよく見られるようになりました。私の町内でも実際の孤独死が起きており、確実に孤独・孤立して生活している人が増えてきています。

そこで、孤独・孤立と言うことが、私たちに与える影響を考え、社会生活上の問題を除去して、より良い社会生活を過ごせるようになることも、まちづくりの一環と考えます。

その中で、孤独はまだ社会と接触が、ある程度ある人を言いますが、より大きな問題として取り上げられるのが、社会から孤立して、その末に孤立死する問題です。まずは認識を共有するため、読んで頂ければと思います。

### 1. 孤立死と孤独死を同等に扱っている場合がありますが違いを知って下さい。

#### ・孤立死

孤立死とは家族や近隣住民との関わりが希薄で、社会から孤立した状態で誰にも看取られることなく亡くなることを指します。孤立高齢者だけでなく、若年層の孤立死も増加しています。助けが必要になったときには誰にも頼ることができない人が増えていきます。また年々増加傾向にある未婚率も、孤独・孤立死の要因として挙げられます。

#### ・孤独死

孤独死とは何かの原因で、亡くなる際に誰にも看取られず亡くなったことを指します。家族や親族、近隣住民とも、ある程度の交流はあったものの亡くなる際にひとりの状態であった場合を孤独死と呼びます。

### 2. 孤立死の主な要因は何か。

・関係の貧困：日常的会話の頻度が少ない、頼れる人がいない状態にある高齢者は、時代とともに増えています。未婚の高齢者は、2000年では58万人だったが、2040年には255万人に達すると予測されます(国立社会保障・人口問題研究所)。

・金銭的生活の困難な高齢者：年金の受給額の不足や、生活を支えてくれる親族がいないことなどにより高齢者の貧困化が進んでいます。体調が悪い、介護が必要となっても自己負担分を払えないとして、病院や福祉のサービスを受けず、手遅れになっても気付かずに放置されていることも多々あるようです。東京都のデータで孤独死+孤立死の割合が多いのは、住民の平均所得の少ない区とのデータが出ています。

### 3. 孤立死への対応(北欧の福祉システムの再評価必要)

・関係の貧困の対応：公助、共助、自助のシステムの内、責任を持って対応できる公助の重視。

・金銭的生活の困難な高齢者：健康的な日常生活を送るために、衣食住・治療・介護などのサービスと、金銭的支援が必要。

・その他：まだまだ課題はあります。出来るところから改善されることを望みます。

#### 表紙の写真:2023年5月初旬撮影

仙台市は「どこに向かっているのか」。写真①は誰もが知る「自慢」の観光スポット青葉城からの眺望。80年～90年代には考えられなかった超高層ビルの乱立。写真②は惨事便乗型復興を象徴する風景。手前のクレーンでも分かるが、白い復興公営住宅を囲むように大通りを挟んだ東側でもタワーマンションが建設中。写真③は仙台朝市の西側に建設中の巨大ビル。都市再生特区指定で容積率は600%から1180%と倍化。都心部全体が、都市再生緊急整備地域指定で「大企業開放区」に。

## 職人(大工) 仕事・いま・後継ぎ

市内にあるOさんの家の螺旋階段(写真)。私の主治医の家、できてから5ヶ月。間取り決めて、後はお任せパターンわ。ロフトに上るのに梯子では面白くないから螺旋階段造ったの。丸太さ踏み台造って。孫たちが喜ぶんだって。つぐったごどねえが私も考えたね。

Oさんは、どこのメーカーさたのんだのっしやってみなから言われたって。「知り合い」って言ったらみな「えー」っていわたって。施主もこんなのつくられるとは思わなかったって。

子どもは、梯子では危ねもんね。大人も上がれんだけでも。削る作業はもうないから、道具持ってる人もないんだよね。かんなくずも出ない、工作機械もいらない、だから作業場いらない。窓枠もねじで組み立てるだけ。こういう所(荒木さんの作業場でインタビュー)でなんでもできっから。45センチの板、ビダーツと削れんだもの。たまに削んの(機械)貸してくれって。

特別に木を見せた家もあったけど。昔、設計事務所さたのんだけどね。すくねぐなっわ。こだわりがある人がいねぐなっ。お金がないと、古い家を直すのが難し

い。直すっていうのは、どうゆうふうにつくってんのがってわがねどね。この前、風呂のリホームを会社で受けて、入口だのなんだの直す人いねがらやってくれーって。

息子と一緒に(仕事)やってんの。これまた大変なのよね……。

私70だっちゃわ、みんな年金者生活だから、仕事頼む人段々といねわね。最近1年に一軒あるかねえがだから。

Oさんの家だっ、床もべこべこしったがらわ。今年建てらんねがったら、私建てらんねよって言ったのわ。んで建てっかなくて。引っ越すのやんだからって、前から言ってだから。夫婦して病院さいってから、建て替えたの。住宅生協で買った家なんだね。前にリホームもしてたからだけどね。

病院のリホームもたのまってからわ、ちょっとしたことでも電話くっからね。すぐ自分で対応できっからだけでも。電気さわと資格がいるって言われっからね。んだから息子さ電気工事士の資格とらした。

息子やるって言う(大工仕事)んで、いかに仕事ふやしていぐがって……。私は知り合いいたがら何とかね。結構そこそこに(仕事)あったていうか。昔は(住宅を)建てて見せて、それが宣伝と営業だったんだっちゃね。自分ながら次から次と良くやったな。(了)



取材・文 阿部重徳



## 「災害ケースマネジメント」制度化、まちづくりの視点から（2）

＝「東日本大震災の被災状況に対応した市街地復興パターン検討業務」に係わった教訓から＝  
岩渕 善弘（新建 みやぎ支部）

### 1. はじめに

2011年東日本大震災から12年、被災地の復興は道半ばといえる。発生確率の高い首都圏直下型や南海トラフ地震に備えた「災害ケースマネジメント」制度化の研究が本格化し、検討されている。

筆者は、国交省都市局の「復興パターン検討」と基礎自治体の「基本設計」に係わった。復興まちづくりのみの業務であったが、そこで得られた経験から何が学べるのか検討した。

### 2. 災害復興、特に公共事業をめぐる視点

災害時の被災者救援が真っ先に取組む課題であるが、今回は津波で壊滅した被災居住地の復興まちづくりに焦点を絞り考える。

「復興まちづくり」で重要なポイントは、被災市街地の復興インフラ（社会基盤整備＝土木計画・都市計画）事業がある。この大規模土木工事については、世間から常に批判の的となっている。「住民無視の工事だ、住民追い出しだ、土木屋の利権だ、談合だ・・・」と。

ここではこうした議論ではなく、「どのようにして復興まちづくりが計画されたか？、制度は？」などの疑問に答える、公共事業の決定過程が極めて曖昧・秘密にされている状況を鑑みての論である。

### 3. 国交省直轄「市街地復興パターン検討」業務とは

今回、筆者が被災地の女川町には4月中旬が最初で、5月からは直轄（国交省都市局）の業務委託により女川町の調査に着手した。本省課長補佐と町に挨拶（町は驚いた）、以後の支援業務を説明確認した。

「コンサルに本省委託業務（派遣）で、被災自治体に復興支援を行う。自治体の復興計画の立案、交付金事務等の技術（コンサル）支援などで、基本は自治体の要請によりその都度技術的検討等の作業を行う技術職員であり、支援費用は直轄が負担する。

自治体の復興作業を中断させるような資料提供の依頼など支障となる行為等は厳重に慎ませる」等、自治体首長や職員に説明して、業務を進めた。

職員にとってはこうしたことは初めてであり、「本当に大丈夫？信用できるの？個人情報等盗まれるのでは？」等と疑心暗鬼、戸惑いが当初にはあった。なにせ、自治体発注の契約でな

いので、委託関係や上下関係もない中で、職員とコンサルとの信頼関係の構築が重要であるといえる。

2011年6月1日から業務を本格化させた。委託内容を以下に記載する。

- 1) 被災自治体の復興計画等に資する支援業務（3月末予算成立（4兆円）、4月業務委託公募（国交省）
- 2) 入札資格：国交省登録（技術士：都市計画10ha超）、JV（地元コンサル+被災者常雇+報告必須等）
- 3) 業務内容：進捗報告（10月、11月、2月に成果提出）、メール指示は責任者のみ、県・町オフレコ  
・被災地や被災者を混乱させない、国交省派遣を傘にしない、町・地元の要望に応えることを徹底  
・地元の要請により作業：独断勝手に作業しない（住民意向調査、市街地復興構想案作成）  
・計画等立案：作成に際しては、必ず事前に本省と確認する。国の予算の裏付け有と解釈される。
- 4) 被災自治体の復興パターンは多様と考えられる。国の支援制度を理解し、柔軟に対応すること。

### 4. 町復興計画策定委員会（2011年5月1日～8月10日）の提言と議会承認

- 1) 町は震災直後3月末に復興計画策定委員会を立ち上げ、全5回開催した。（詳細は次回に）



（写真-1. 女川駅隣接墓地に流された電車）



（写真-2. 3復興した女川駅～墓地と女川湾）

## 震災復興への旅 石巻市の震災復興調査に向けて

阿部 重憲

復興の仕事に一区切りをつけて10年近く経ちますが、ますます復興の事や都市計画・まちづくりの事が気になって、もっと早くわが身の無知を自覚すべきであったと後悔しています。この度、新建宮城支部としても復興について考えよう、石巻の復興について皆で取組もうということになりました。支部長が石巻在住、事務局長が石巻の御曹司とこれ以上の条件はないと思います。

また一方で、みやぎ震災復興研究センターが数年前まとめ出版した『東日本大震災 100 の教訓 地震・津波編』の続編の発行を予定しており、私もその企画・執筆に係っています。そんな中、百聞は一見に如かずと思い、2月の初めに石巻に行ってきました。寒中でしたが、丁度その日は好天で風もなく、仙石線の蛇田駅で下車し、休憩をとりながら北上川を越えて湊地区まで歩いてきました。

早朝、仙石線東北ライン仙台駅乗車、蛇田駅下車。3.11大震災前と比較して違うのは、仙台からの下り電車で蛇田駅下車の通勤客の多さにはびっくりしました。集団移転で急遽、街になった蛇田駅周辺での仕事・生活について道行く人に聞こうとも思ったのですが、通勤中のせわしい中でできませんでした。

それから大街道の二線提と沿道の土地区画整理事業地区を視察しました。この地区も含め広大な被災市街地復興推進地域指定を行い、広範囲に事業をやるという意図も見えつつ、二線提（嵩上げ道路）のために土地区画整理事業をやったようなもので、空地も広がっていました。特に下釜第一地区は地区のアソコ部分は広大な空き地でした（写真）。事業後のミニ開発のような戸建て住宅も多く、被災市街地復興というよりも土地所有者による宅地供給事業地区のような印象でしたが、調べる必要があると思っています。

中心部では多くの再開発が計画されていますが、次々に頓挫しているようです。被災後の再開発事業の連鎖的展開を意図していたようですが、惨事便乗で復興交付金目当てに多くの事業が仕掛けられた状況が手に取るようにわかります。

一階の店舗の様子からもご苦労されていることが伝わってきます。上層部が集合住宅の再開発事業ですが、事業立ち上げは住宅再建需要と、有利な復興交付金事業により可能でしたが、この床構成では、先の事業性には期待できず、建て替えは難しいのではないかと心配です。

それよりも何よりも、これらの土地区画整理事業や再開発事業を実施した地区と、被災後の整備の手が及んでいない地区との格差が歴然としており、東日本大震災の住まいと市街地復興をめぐる深刻な問題を提起していると考えています。

---

**編集後記：** P3で表紙写真の簡単な説明をした。撮影のいきさつは、地元の「エフエムたいはく」で「みんなて話そう明日のみやぎ・地域主権という希望」という番組にゲスト出演することになった。話は「仙台市の都市計画・まちづくり」。リアルな話をすべく、問題の写真を撮りまくった。仙台は、いま巨大ビル乱立の真ただ中。去年は、中心部の「杜の都」景観条例による高さ制限を撤廃した。

題字の「やっぺあ」は、保管していた岩渕さんからご提供いただいた。かつて、会員の方が作成していたとの事。前号までは故人の平本さんの手書きで、ここでの「別れ」が惜しまれる。が、先人の作・活動の継承であることを記しておく。(S.A)

